



未来予想図

「未来の年表」という本が売れているようです。少子高齢化社会を迎える日本がこれからどうなっていくかを年表にして予測しています。一例を挙げると、

2019年 IT技術者が不足し始め、技術大国の地位揺らぐ

2023年 企業の人件費がピークを迎え、経営を苦しめる

2026年 認知症患者が700万人規模に

2030年 百貨店も銀行も老人ホームも地方から消える

もはや日本に明るい未来はないと暗澹たる気持ちになりますが、実際はこの手の予測はほとんど当たることがありません。

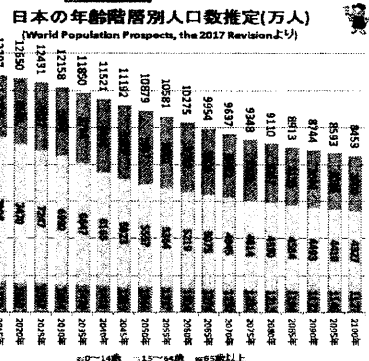
この本を読んで思い出したのが、私が子供の頃に騒がれたローマクラブによる「成長の限界」というレポートです。このレポートは石油が21世紀を迎える前に枯渇し、50年後には人類の成長は限界を迎えるという衝撃的な内容でした。しかし、現実はどうでしょうか？当時あと20年で枯渇すると言われていた原油は、今では採掘可能な埋蔵量が100年とも言われています。そして、人類はAIの進歩による未知の領域へと突き進もうとしています。

未来の予測が難しいのは、未来が現在の延長上にはないからです。人類はイノベーションという特異点を経験するたびに、予測不能な未来に足を踏み入れてきました。例えば、インターネットの出現で社会は全く別の姿に変化してしまいました。電車の中で全員がスマホを眺めている現在の日本の姿を10年前に誰が予想できたでしょうか。先ほどのローマクラブの予想がはずれてしまったのはイノベーションによって新しい油田が発見できたり、それ以前は採掘不能であったシェールオイルを入手できたからといわれています。

しかし、イノベーションは全くの偶然で起きるわけではありません。それまでの不断努力が、ある瞬間に昇華していくのです。それは物質の状態変化に似ています。水の温度を99℃まで上げたとしても、最後の1℃を上げることができなければ、永遠に沸騰することはないことと同じです。

人の成長についても、同じような変化を感じる時があります。受験という大変な試練をくぐり抜けたとき、「変わったな」と感じられる生徒がとてもたくさんいます。これは成績のことではなく、内面的なものです。不断努力の末に何かが変わっていくのです。だから、最後の1℃を上げるまで諦めないでください。成績が上がらず思い悩んでいる人も、数字には表れないものが、君の中で変化を待っているから。これ以上は無理という瞬間を乗り越えてこそ、次の扉が開くのです。

3年次主任 小笠原 宏



12月 行事予定

日	曜日	A/B	予 定	日	曜日	A/B	予 定
1	金	B	全統センタープレ(3) 健康調査開始 出願指導面接(~12/15)	16	土		
2	土		全統センタープレ(3)	17	日		駿台センタープレ(3)外
3	日		駿台ハイレベル(3)	18	月	A	
4	月	A	きずなの日	19	火	A	
5	火	A		20	水	A	
6	水	A		21	木	A	推薦内定者集会
7	木	A		22	金	行	休業前集会 大掃除
8	金	A		23	土		天皇誕生日 音楽発表会
9	土			24	日		
10	日			25	月		冬季休業開始
11	月	B		26	火		
12	火	B		27	水		
13	水	B		28	木		
14	木	B		29	金		校内完全閉鎖(~1月3日)
15	金	B		30	土		
				31	日		

保護者のみなさまへ

今年も残すところあと1ヶ月となりました。保護者の皆様にとってもいろいろな思いが交錯して、落ち着かない日々が続いていると思います。同じように受験生である生徒たちには今まで経験したことのないストレスがかかる時期です。いつも通り家庭で心温まるひとときを持っていただくことが、生徒たちにとって明日への活力になりますので、ご家庭はおおらかに構えていただき、子どもを信じ、励ましていただければと思います。また、風邪やインフルエンザが流行する時期ですので、体調面でのサポートにつきましても、よろしくお願いたします。

◎今月は、2組副担任保健体育科の二宮 可南子先生の寄稿を掲載します。

自分を変えるきっかけになった2つの言葉

私には自分を変えるきっかけになった言葉が2つあります。1つ目は高校時代、2つ目は社会人になってから聞いた言葉です。

高校時代はバスケットボール部に所属しました。私の母校は鶴鳴学園長崎女子高校です。私は高校3年間を長崎県で過ごしました。部活では山崎先生という全国でも有名な指導者にバスケットボールを教えてもらいました。1つ目の言葉は、この恩師が言った「ケガ病気も実力のうち」という言葉です。高校3年の夏のインターハイで、試合中に左手小指の第5関節を骨折しました。そのときは手の痛みを我慢しながら試合を続けました。「大事な試合だし」「最後だし」と思い、先生には内緒にして結局残りの2試合も出場しました（後で知りましたが、先生は知っていたみたいです）。今思えばそんな状態で試合に臨むなど、選手失格ですね。大事な試合だったからこそ尚更です。それから「どんなに素晴らしい舞台が用意されてもケガ病気をしたら何の意味も無い。」と心から思い、もう怪我をしないようにと日々の食事や健康管理、トレーニングを今まで以上に大事にし、常に最善を尽くすようになりました。

2つ目は、「答えは色々ある。白と黒だけでなく、グレーだって良い。」という言葉で、高校の先輩がかけてくれた言葉です。この言葉のお陰で、自分自身のあらゆる可能性に目を向けることができました。当時「バスケットボール漬け」の生活を続けていた私は、「勝つ」「成功する」「試合に出る」ことが全てでした。失敗したり、負けたり、何か上手くいかないことがあったときに、人生が終わったかのような絶望した気持ちになることがよくありました。その度に、体にむち打って無理矢理頑張る…。勝てば「天国」負ければ「地獄」。いつしか心から楽しむことができなくなりました。だから、「白も黒もグレーもある。」は「どれでも（どんな結果でも）オッケーだよ。」と言ってくれているようで、意固地になっていた心が緩むきっかけになりました。失敗しても、「これも次へのステップになる」と思えたり、困難な状況に直面しても、「なにか意味がある」と思えたりしました。物事の結果に引きずられず、新しい気持ちで過ごせるようになったのです。

3年生の皆さん、大変なこの時期ですが、「今」に集中し、「今」が「いちばん」だと考え、「今」を楽しみ尽くして下さい。その中で、色々言っても「健康」が一番だと思うので、「ケガ病気も実力のうち」という言葉を参考に、受験シーズンの「健康管理」も工夫してみてください。今意識的に健康管理できる人は生涯通じてそれができる人だと思います。そしてその力は今後生きてくると思います。さらに、人生は「結果」が全てじゃないので、答えは「白も黒もグレーもある」というように自分のあらゆる可能性を信じ、柔軟に取り組んでいって下さい。「食事」「睡眠」「運動」をバランス良く！みなさんにとって充実した受験シーズンになりますように…。